



社会福祉法人 めぐみ会

2025 年度 事業報告

第 1 号議案 2025 年度事業報告案

[2025/4～2026/3]

第 2 号議案 2025 年度決算報告案

<目 次>

I. 法人理念および方針	1
II. クレド	2
III. 2025 年度事業報告	3
①法人本部	3
②新規事業準備室	6
②かしの木ケアセンター	8
③生活介護くろす	13
④相談支援センターかしの木	15
⑤地域生活サポートセンターらいと	17
⑥のびる作業所	18
⑦すてっぷ・いっぽ	21
●2025 年度 委員会報告	23
IV. 2025 年度決算報告	32
●2025 年度決算について	32
●2025 年度決算	36

I. 法人理念および方針

■ 理念

社会福祉法人めぐみ会は地域と共に歩み、地域の福祉を担います。

私たちは地域の社会福祉の担い手として、共に暮らしている隣人たちと考え、創り、社会福祉活動を推進していきます。また社会福祉法人としてのあるべき姿を追求し、地域に必要とされる法人を目指します。

■ 方針

地域福祉の推進

私たちはすべての人の「しあわせ」を考えた地域を目指します。

私たちが暮らしを営む中で、「しあわせ」を感じる時には、満足感や安らぎ、そして自然と笑顔がこぼれます。「福祉」とは「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味します。私たちが考える社会福祉とは、生活上支援が必要な方に生活の質が維持、向上するためのサービスを提供する事です。こうした活動の中で、支援を必要とする方々を含め、より多くの方が「しあわせ」を感じることの出来る地域を目指します。

権利の尊重

私たちはすべての人の尊厳を尊重し、自分らしさの実現を支援します。

憲法で保障された基本的人権の尊重を遵守し、差別なく、どのような個性や環境をお持ちの方であっても、私たちはその人らしさを大切にし、その言葉や意向に耳を傾けます。そして生活の中での楽しみや働く喜びなど、自分らしさを実現する支援をします。

法令の遵守

私たちは法令を遵守して、社会に信頼される法人であり続けます。

社会福祉法人は公共の利益を目的とした法人です。私たちは法令を正しく守り、社会の信頼を得るために積極的に情報公開や説明責任を果たします。

人材の育成

私たちは専門家としての自覚を持ち、創造力と向上心を発揮する職員を育成します。

私たちは人の「しあわせ」を目的としており、人との関わりが非常に大切です。専門職としての充実と共に人間力が必要とされます。法人は職員を人として、なおかつ福祉従事者として十分に成長出来るような取り組みをし、地域が必要とする人材を育成します。

経営の安定

私たちは持続可能な福祉の実現に向けて、経営基盤の安定に努め、社会的責任を果たします。

国の施策方針や景気の変化にも耐えうる為の経営努力を怠らず、なおかつ安定したサービスの提供を継続していくことが、めぐみ会に与えられた社会的責任と考えます。

職場環境の充実

私たちは心身共に健康で、安心して長く働ける職場環境をつくります。

質の高いサービスを提供する為には職員が心身共に健康でなければなりません。その為に生活と仕事のバランスがとりやすい職場環境を配慮し、職員が健やかで長く勤められる職場を目指します。

CREDO ～私たちの使命と求める職員像～

私たち社会福祉法人めぐみ会は、地域の福祉を担うため社会から多くの求めを受けています。それを私たちは自らの使命として掲げその務めを果たします。

私たちの使命は、地域社会のしあわせを考えた組織活動を行うことです。
それは私たちが地域社会の一員であり地域と共に歩む存在だからです。

- 1) 法令を遵守し、誰からも信頼される組織作りを行います。
- 1) 地域の活動に積極的に参加します。
- 1) 地域の方々にめぐみ会の活動を発信します。
- 1) めぐみ会内外の人々の声に耳を傾け、社会福祉法人として正しい行いをします。

私たちの使命は、利用者・家族に安心してサービスを利用していただける環境を作ることです。

それは、私たちが利用者の自分らしく自立（自律）した暮らしの実現を強く願っているからです。

- 1) 利用者の思いを第一に同じ目線で考え、行動します。
- 1) 利用者の状況把握に努め、適切なサービスを提供します。
- 1) 利用者・家族へ対する敬意を忘れることは決してありません。
- 1) いつも元気にあいさつをし、すべての人々とのコミュニケーションを大切にします。

私たちの使命は、専門職としての価値観を持ち、社会人として責任ある行動をとることです。

それは私たちが知識・技術を持つ福祉専門職であり、個性ある人格を有した社会人だからです。

- 1) 社会人として礼儀を重んじ、自らの言動に責任ある行動をします。
- 1) 常に向上心を持ち、どのような場面からも学ぶ姿勢を忘れません。
また、すべての職員が能力の開発の為その機会を得ることができます。
- 1) 一人一人の職員は認められた存在です。互いを尊重し認め合うことでより良い職場環境を自らの手で作り出すことができます。

第1号議案

②各計画およびスケジュール

法人本部：総務係

■第1期3か年計画

- 1 エリアマネジメント制度の確立
- 2 アニメーション制作と発信
- 3 「おしえ合う」「つたえ合う」文化の醸成
- 4 外国人材の研修プログラムの構築と実践
- 5 海外事業との接点の強化
- 6 経営基盤の安定
- 7 未来志向な利用者支援、新規事業への投資
- 8 地域と連携した災害時の支援体制の構築に向けた検討を開始

■2025年度取り組み

1 エリアマネジメント制度の確立

実施内容	実績
◆エリアマネージャーの組織的導入と配置。	実施 (評価) 4月より三芳エリアマネージャーとふじみ野エリアマネージャーを配置した。
◆キャリアパス規定、キャリアパス要件等を更新し、各等級の役割、評価基準を改めて設定。	実施 (評価) キャリアパス規程及びキャリアパス要件を更新し、各等級の役割、評価基準を改めて設定した。規程等の改定に合わせ、周知のための動画を制作し職員の視聴状況を管理した。
◆エリアマネージャーを中心に「ふじみ野SPACE」を無事開始。	ふじみ野エリアマネージャーを中心にふじみ野SPACEの第1事業所となるi c o i lの事業開始に向けた準備を行った。
◆新規事業及び既存事業安定のための新卒採用を実施。(5名)	上半期、新卒者の採用実績なし。

2 アニメーション制作と発信

実施内容	実績
◆近隣学生等と「アニメ×福祉」についてのワークショップを実施。(年2回)	未実施 下半期に予定
◆現在のコンテンツ(Your Life Change My Life)の効果的発信。	国際福祉機器展のトークセッションに入ることが確定し、アニメ×福祉について話をする予定。

3 「おしえ合う」「つたえ合う」文化の醸成

実施内容	実績
◆海外事業、専門学校、内部研修等における講師を養成。 ・海外事業における介護教育への参画 ・介護福祉士養成校（専門学校）への講師派遣 ・内部研修における講師の増員 （正職員のうち、階層別研修にて講師をおこなった職員の人数）	・9月9日、モンゴルの教育・送り出し機関であるリクルートスタッフ社員及び、現地介護施設の職員に対し①介護の接遇②持ち上げない介護の授業を行った ・4月より、埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校に2名、秋草学園福祉教育専門学校に1名の講師派遣を行った ・2024年度実績 28人⇒年度末に評価
◆「おしえ合う」「つたえ合う」要素を持った内部研修を構成。 ・内部研修講師の育成 ・ブラザー、シスター制度の強化のための育成	・内部研修講師の育成は下期に実施 ・ブラザーシスター制度強化に向けた、アンケート調査を実施。調査結果、分析結果をもとに主にかしの木ヶアセンタールとくろすにおいて具体的な取組みの検討を行った
◆各階層別研修においてコミュニケーション技術系研修を実施。 ・新人研修 ・中堅研修 ・リーダー養成研修 ・リーダー研修 ・経営幹部候補者研修	・新人研修 終了 対象8名 ・中堅研修 外部研修修了 対象4名 ・リーダー養成研修 外部研修終了 対象3名 ・リーダー研修 下期に実施 ・経営幹部候補者研修 2名が通信教育受講中

4 外国人人財の研修プログラムの構築と実践

実施内容	実績
◆外国人人財向けの日本語教育プログラムを実施。 ・OJTによる日本語指導の定着への取組み ・オンラインによる日本語教育の実施	・日本語指導の定着を目的とした、日本人スタッフ向けの異文化理解研修を企画。準備段階としてCQIテストを受検した。 ・外国人スタッフ向けのオンライン日本語研修を開始した。 9名を対象に、N2コース、N3コースに分けて実施。 7月JLPT試験で1名がN2合格。
◆多文化理解を深めるための取組みを実施。	・6月職員会議にて中国・モンゴルフェアを行った。 ・9月めぐみ祭りにてフィリピン・ベトナムフェアを行った（10月にフェアに向けて作成したパネルを各施設で展示） ・日本人向けに異文化理解研修を企画した。

5 海外事業との接点の強化

実施内容	実績
◆海外での教育を担う人財を育成。 ・介護福祉士取得者を4名増加。 ・介護養成校講師4名 実習指導者研修2名 ・実務者研修講師の活躍の場の確保	・介護福祉士国家試験対策の勉強会を9月より開始した ・介護福祉士養成校講師 3名（下期より4名）、実習指導者 0名 ・実務者研修教員講習修了者の活躍の場の検討を行った（下期に講師派遣）
◆海外への講師派遣の実施。 （10日間×2回/年）	・モンゴルの教育機関及び現地施設にて介護の接遇と持ち上げない介護の授業を行った。

6 経営基盤の安定

実施内容	実績
◆6か年の中期経営計画を作成。	作成済み
◆資金収支差額（修繕積立前）の収入比率1.2%を目標。	資金収支差額 14%（修繕積立前）
◆減価償却相当分の修繕積立金および人件費を積立。 （減価償却相当38%）	1.02億円積立
◆年間事業活動収入8.1億円を目標。	年間事業活動収入 8.9億円

7 未来志向な利用者支援、新規事業への投資

実施内容	実績
◆現在までに導入したソフト、アプリケーション、機器の評価。	社内ポータル 評価済み
◆法人本部企画係に広報担当を配置し、広報戦略を基にSNSグランドデザインを構築。	SNS戦略を作成するも可視化するには至らず、職員向けのインナーブランディングをLINEでおこなう事とし、公式LINEを作成。
◆SNSの連動性を可視化し、各アプリケーション毎の数値目標を設定。	連動性を作る為のHPの整備をしている。 （本部HP ふじみ野SPACE かしの木ケアセンター）

8 地域と連携した災害時の支援体制の構築に向けた検討を開始

実施内容	実績
◆各エリアが関係する機関と連携し、災害時の体制の構築に向けた検討を実施。	未実施

新規事業準備室

第1期3か年計画

- 9 新規事業の開始に向けた取り組み
- 10 事業の安定に向けた取り組み
- 11 「S・P・A・C・E部ブランド基準」の具現化に向けた取り組み
- 12 ふじみ野SPACEの広報

2025年度取り組み

9 新規事業の開始に向けた取り組み

実施内容	実績
◆利用者の獲得に向けた取り組みを実施。 - 生活介護事業の利用者の獲得に向けた取り組み。 - 日中支援型グループホームの利用者の獲得に向けた取り組み。	- 説明会計3回実施、イオンタウンでの告知イベント、ふじみ野市内障害福祉サービス事業所説明会に参加。 10/24、25で内覧会を予定している。 - 利用者の獲得に向け、ふじみ野市内の相談支援事業所と情報交換を行った。
◆ICTやAIの導入に向けた検討を実施。	導入可能範囲を検討中。
◆利用者が安心して利用できる施設づくりへの取り組み。 - 地域の防災計画等に応じた体制の整備について検討。 - 災害用BCP、感染症対策BCPを策定し、必要な訓練等の実施。	- 地域の体制整備に関するニーズの聞き取りを行った。 - icoilの開所に合わせ、災害用BCP、感染症BCPを策定した。

10 事業の安定に向けた取り組み

実施内容	実績
◆生活介護事業所の利用率90%を達成。	icoilの11月～3月末までの平均利用率は55%であり、目標を下回った。 (評価) 当初の目標を下回ったが、利用者の施設移行や新規利用がある中で安全にご利用いただくための環境面では55%は最適だったと考える。
◆職員の多様性と業務の効率化に対応したICT、AIの導入、活用。	各記録関係のタブレット入力促進のため、タブレット端末を2台導入。 既存のチャットツールの活用を検討し、職員間の情報共有や業務の効率化に取り組んだ。 (評価) 現場の課題に即したICTの導入ができたことは評価できる。さらなる活用について、職員の理解と学習を深めていく必要がある。
◆事業の安定とチームビルディングのための研修の実施。 - 虐待防止、BCP等の必須研修の計画的な実施 - 新しいチーム作りのための取り組みの実施	- 虐待防止研修BCP等、必要な法定研修をicoilの開所後に実施した。 10月、開所前に新しいチームメンバーでチームビルディングを目的とした研修を実施した。 1月、icoil職員の親睦会をpine cafeでおこなった。 (評価) 予定通り実施できたことは評価できる。今後は運営の基盤となるような研修を企画し、実施していかなければならない。

11 「S・P・A・C・Eブランド基準」の具現化に向けた取り組み

実施内容	実績
◆『S：満足』 E S、C Sを実施および定期的な事業の評価。	3月CS調査を行った。 (評価) おおむね高評価を得られた。送迎時間や職員の態度など、一部ご意見をいただいた部分については次年度以降の課題として改善に向けて取り組んでいく。
◆『P：平和』 ふじみ野SPACEのコンセプトにちなんだ事業所の空間づくりへの取り組み。	外観と施設内のインテリアを南国風に統一し、ふじみ野SPACEのコンセプトを具現化できた。ヤシの木はシンボルツリーとして活躍している。 (評価) 限られた予算、資源の中でふじみ野SPACEのコンセプトを具現化できたことは評価できる。
◆『A：地域』 地域交流のための活動を年に1回以上実施。	未実施 ※交流イベントではないが、ふじみ野市社会福祉法人連絡会主催のフードパントリーの開催にpine cafeを提供した。 (評価) 開所初年度であり、大掛かりなイベントの開催は見送った。フードパントリーの開催協力は、今後の交流イベントや目的に沿った活用方法の検討に活かされるものとなった。
◆『C：挑戦』 利用者、職員、地域の人々の未来に向けて、福祉×〇〇に挑戦。	開所初年度であり、すべてがicoilにとって挑戦となった。利用者が行う作業を探す過程でも、企業や作業内容で福祉×〇〇に取り組む方法はないか？といった視点で進めることができた。 次年度以降、取り組みを実施したい。
◆『E：楽しい』 利用者や地域の人々の笑顔があふれる事業所づくりに取り組み、SNS等でその成果を発信。 ※下記項目のとおり実施します。	・icoilでの活動を月に1～2回のペースでInstagram発信した。 ・pine cafeの活用の様子をInstagramで発信した。 (評価) 多くはないがInstagramで活動の様子を発信できたことは評価できる。ご家族からも発信について好評をいただいており、次年度も継続して実施したい。

12 ふじみ野SPACEの広報

実施内容	実績
◆ホームページやSNS等を活用したふじみ野SPACEの広報への取り組み ※ブランド基準の『E：楽しい』	・ふじみ野SPACE用Instagramを開始した。 ・ふじみ野SPACE用ホームページを開設した。

かしの木ケアセンター：入所支援係

■第1期3か年計画

- 13 人財力向上のため、安心して学び、挑戦できる研修プログラムの構築と実践
- 14 利用者の多様性を引き出し、発展的な活動の提供
- 15 快適な生活を送るための最適化

■2025年度取り組み

13 人財力向上のため、安心して学び、挑戦できる研修プログラムの構築と実践

実施内容	実績
◆既存のOJT研修と育成プログラムの評価。	介護技術OJTについてマニュアルを一部改定済み。
◆多様なキャリア経験や国籍に対応した新たな育成プログラムの構築。	新たな業務マニュアルおよび評価指標を策定。 (評価) 経験値や国籍に関わらず、適用可能な業務マニュアルが整備できたことは評価できる。運用に至らなかった為、次年度継続取り組みとする。
◆職員を講師とするオンライン研修を実施し、「おしえ合うつたえ合う」文化の醸成。	中堅職員によるOJT研修、外部講師の派遣をおこなった。 (評価) OJT研修、外部講師の取組ができたことは評価できる。オンライン研修の実施には至らなかった為、実施方法を再考し、次年度に継続取り組みとする。
◆YouTubeを活用した教育動画コンテンツを作成し、いつでも学べる環境を提供。	2本の教育関連動画を提供済み。 (評価) 試験的に実施できたことは評価できる。一方で実運用には至らなかった為、継続課題となる。
◆業界外からの人財採用と定着の取り組み。	KCC事業プレゼンテーションを実施。 (評価) 提案者の企画力、競争心、モチベーション向上や次年度の取組へつながったことは評価できる。
◆部活動の発足や職員交流、イベントの充実。	他施設との職員交流会を実施。 (評価) 部活動等、新たな職員交流機会増には至らなかった為、次年度継続課題とする。

14 利用者の多様性を引き出し、発展的な活動の提供

実施内容	実績
◆フェスの開催、e-スポーツを交えた活動等の創造と発信。	KCCフェスを開催した。 (評価) 事業所単独での新たな祭典の開催により、地域交流、活動参加機会の発展ができたことは評価できる。
◆多様な活動を通じて、利用者の参加機会と生産活動の拡充。	KCCワークス、スポーツ、ヘルス、3つのグループ活動を開始。 (評価) 利用者のニーズ変容を踏まえ、所属制から選択制の活動に変更し、通年で活動提供できたことは評価できる。

15 快適な生活を送るための最適化

実施内容	実績
◆医療機関との連携体制強化。	他法人の訪問看護事業所と連携し地域の医療的ケアニーズおよび医療機関との連携方法の実態調査をおこなった。 (評価) 医療的ケア対象者の在宅生活における医療連携体制について把握できたことは評価できる。
◆円滑な利用調整のために業務プロセスを改善し、予約システムを再構築。	担当職員を増員している。 (評価) 増員したことにより、利用率の向上につながったことは評価できる。一方で予約システムの再構築には至らなかった為、継続課題となる。
◆新たな介護機器を導入し、利用者の利便性と安全性の向上。	3月電動ベッド5台導入。 (評価) 予定通り実施できたことは評価できる。
◆ChatGPTを中心としたAI技術やICT、IoTの導入検討と準備。	文書作成業務に関してChatGPTの試験運用開始。インカムシステム導入済み。 (評価) 試験導入により一部業務効率化ができたことは評価できる。一方で設備面での課題も出ている為、継続取り組みとする。
◆KCCのブランディング。	かしの木ケアセンターのyoutubeチャンネルを開設。動画43本投稿。 HCR(国際福祉機器展)に職員2名が登壇 (評価) SNS発信等を通し、広報活動を年間通して取り組めたことは評価できる。認知度向上には継続的な取り組みが必要となる。
◆経営の効率化を図り、利益率2.5%を目標。	上半期利用率 施設入所：102.6% 短期入所：60.4% 生活介護：95.9% (評価) 収入、収支差額、利益率が向上したことは評価できる。
◆大規模災害を想定した訓練と備えの強化。	災害時非常電源設備について調査実施。 ライフライン停止時の趣味レーション訓練を実施。 (評価) 大規模災害を想定した備えが結論づけられたことは評価できる。次年度以降、計画的な実施が必要となる。
◆生活介護事業について、くろす(単位2)と分離し、単独事業所(定員50名)として運営。	4月1日より開始。 (評価) 計画通り、単独事業として通年で運営されたことは評価できる。

かしの木ケアセンター：健康支援係

第1期3か年計画

- 16 利用者の健康状態悪化予防の取り組み
- 17 リハビリ作品を通して文化・芸術的活動への参加

2025年度取り組み

16 利用者の健康状態悪化予防の取り組み

実施内容	実績
◆介護職等が歯科医師や歯科衛生士の助言や指導を受けられる仕組み作りを実施。	毎月1回エイジング歯科衛生士から助言及びCWへ口腔ケアのポイントについて個別指導を実施。 歯ブラシ交換も計画的に実施。 (評価) 計画的に助言や指導を受けられたので、評価できる。
◆利用者の食事姿勢の評価。	利用者1名が堀ノ内病院摂食嚥下センターの往診継続。嚥下造影検査結果を踏まえて食事姿勢のアドバイスを受け車椅子を変更。次年度車椅子判定へ。 (評価) 利用者の嚥下状態確認から姿勢の評価をチームで行い、今後の車椅子作成へ繋がられたので評価できる。
◆医的ケアに関する入所・SS利用のニーズ把握。	10月より看護師1名が週2日訪問看護ステーションへ出向し、近隣の医的ケアのニーズ把握を実施。 (評価) 近隣の医的ケアニーズ把握は行えたことは評価できる。ケース数が多くないため次年度も継続とする。

17 リハビリ作品を通して文化・芸術的活動への参加

実施内容	実績
◆法人文化作品展・身障協文化作品展・福祉祭りに出展。	7/17～26 法人文化作品展。 9/28 めぐみまつりギャラリー。 2/18 KCC FESで作品展示。 (評価) 計画していた作品展に参加できたので評価できる。

かしの木ケアセンター:栄養係

第1期3か年計画

- 18 衛生的かつ安心・安全で良質な食事の提供
- 19 利用者に喜ばれる食事の提供
- 20 おいしい食事の提供

2025年度取り組み

18 衛生的かつ安心・安全で良質な食事の提供

実施内容	実績
◆厨房職員との情報共有・連携を強化。 ①月1回の給食会議で献立の検討や意見交換を実施。 ②厨房職員との業務ノートを活用し、日々の連絡事項において共有を図る。	①毎月第3木曜日に給食会議を実施し、意見交換をおこなっている。 ②業務ノートへの記入のほかにも、厨房の朝礼に参加し、日々情報共有を図っている。 (評価) 日々のコミュニケーション、情報共有を重ね、安心安全な食事提供をおこない、事故に対して早急な対応・防止策の取り組みがおこなわれたことは評価できる。
◆施設入所者の食形態の見直しを実施。	食事摂取状況の確認およびご利用者のご要望を多職種と情報共有し、必要性の高い方の食形態を変更した。 (評価) 日々の食事摂取状況の確認やご利用者との関わり、他職種との情報共有により、食形態の見直し、安心な食事の提供につながったことは評価できる。
◆定期的な個々の栄養評価・経過観察(栄養ケアマネジメント)を継続実施。	定期的に体重測定や食事摂取状況の確認をおこない、個々の栄養評価を継続実施している。 (評価) 栄養ケアマネジメントの実施により、他職種との情報共有を図り個々の栄養管理につながったことは評価できる。

19 利用者に喜ばれる食事の提供

実施内容	実績
◆月6回以上、選択食を提供。	毎月6回以上実施。 (評価) 計画通り実施できたこと、掲示物でお知らせをおこない、ご利用者や職員に楽しみにしていただけるよう工夫をおこなったことは評価できる。
◆イベント食の提供。 ①季節の行事に合わせた食事を提供。 ②4・7都道府県のご当地メニューを年6回以上提供します。	①完全調理食品を取り入れながら、季節の行事に合わせた食事を提供している。 ②4月・6月・8月・10月・1月・3月に提供済み。 2か月に1回提供している。今後も継続。 (評価) 掲示物でお知らせをおこない、ご利用者・職員に楽しみにしていただけるよう工夫したこと、厨房と連携し、行事食やイベント食を計画通り実施できたことは評価できる。高評価に至ったため、今後も継続していく。

実施内容	実績
◆リクエスト食の提供。 ①毎月グループごとにリクエストを募集。 （各グループ年6回担当制） ②毎月くろすからのリクエストを募集。	毎月グループ、くろすからリクエストを募集し、献立の中で該当するものを掲示物等でお知らせしている。 （月8個以上） （評価）計画通り実施できたこと、掲示物でお知らせをおこないご利用者に楽しみにしていただけるよう工夫をおこなったことは評価できる。
◆テーブル・食器類の変更を実施。 ①食堂のテーブルを順次新しいものに入れ替え実施。 （年2台） ②食器を順次新しいデザインのものに入れ替え実施。 （2025年度は深皿）	①実施済。 ②実施済。 （評価）購入、設置を行い計画通り実施できたことは評価できる。次年度も追加購入予定。

20 おいしい食事の提供

実施内容	実績
◆嗜好調査を活用し、施設の食事「おいしい」「まあまあおいしい」を併せた利用者・職員平均95%を目標。	実施済。利用者85%、職員77%、平均81%。未達成。 （評価）前年から低下している要因として完全調理品に変更したことが起因していると考えられる。継続課題として取り組む必要がある。
◆検食簿評価の主菜について、味付け「良い」「やや良い」併せた年間平均値95%を目標。	上半期平均値99%。下半期平均99%。 達成。 （評価）計画通り実施できたことは評価できる。
◆かしの木オリジナルメニュー第一弾を地域のイベントで販売。	めぐみ祭りで販売をおこない、厨房職員と振り返りをおこなった。 （評価）計画通り実施できたことは評価できる。地域のお祭りなどでも販売検討し継続取り組みとする。

生活介護くろす

第1期3か年計画

- 21 医療的ケアの受け入れ体制の強化
- 22 事業の安定化への取り組み
- 23 サービスの品質向上

2025年度取り組み

21 医療的ケアの受け入れ体制の強化

実施内容	実績
◆第3号研修修了者が支援員の50%以上を目標。	研修修了者4名。58%達成。 (評価) おおむね予定通り進捗できたことは評価できる。
◆ガイドラインに沿った受け入れを実施。	ガイドライン見直しを年2回実施し運用を確認 医療的ケア利用率16.12%未達成。 (評価) ガイドラインに沿った受け入れができたことは評価できる。医療的ケアの利用者についても伸びがみられ、未達成ながらも評価できる。

22 事業の安定化への取り組み

実施内容	実績
◆入浴支援の提供の10%アップを目標。	利用者入れ替わりや入院等により男性のチェア浴の利用率が-30%特浴-6%。女性チェア浴+10%特浴±0%。未達成。 (評価) 利用者の入退所により変動が大きかった。今後男性の入浴の受け入れの可能性が広がった。
◆リハビリの提供と満足度向上に向けた取り組みを実施。	エルゴメーターの購入でリハビリの幅を広げられた。CW対応のリハビリについてやり方を写真付きでまとめリハビリ場所に設置。 下半期はリハビリ用品の入れ替えや環境整備については次年度へ。 (評価) CWが行うリハビリが増えたことは評価できる。次年度以降で満足度向上を確認したい。
◆創作(アート)活動の強化。	くろすエントランスにて常設、7月文化作品展、9月めぐみ祭りにて創作作品の展示。12月三芳町福祉祭り、2月KCCに展示。 (評価) 昨年より多く出展できたことは評価できる。
◆業務の効率化に向けたICT、AIの導入に向けた検討。	職員にアンケート実施済み。デモが可能なものから試していくこととする。 (評価) 職員の希望が聞けたことは評価できる。デモが可能なものから試していきたい。
◆災害等対策と事業継続への取り組み。	感染症:BCP更新済み。異動職員へのBCP配布、委員会の取り組み実施。 防犯防災:避難訓練・防犯訓練各1回。BCP更新済み。 (評価) BCPの更新ができ周知できたことは評価できる。
◆生活介護事業について、かしの木ケアセンター(単位1)と分離し、単独事業所(定員20名)として運営。	4/1より単独事業所として運営開始している。 (評価) 予定通り運営開始できたことは評価できる。

23 サービスの品質向上

実施内容	実績
◆新人育成方法の見直しと実施。	教える側のスキルアップのため人材育成担当者研修・スーパービジョン研修受講済み。 育成方法：独り立ちまでの期間を個々に合わせて暫定とし、スケジュールの予定・実績をわかりやすいものにした。一定周期での振り返りの実施を必須とし、1日の業務スケジュールも見直した。 （評価）育成側の研修、育成方法の見直しができることは評価できる。次年度以降実施していく。
◆課題に気づく力を身につけるための仕組みづくりの検討。	普段から問題意識をもって業務に当たれるよう夕の申し送りで本日の気づきを発表している。 （評価）発表することで意識を持てたことは評価できる。今後も継続して行っていく。
◆CSの実施	接遇研修（身だしなみ）、強化2WEEKも実施。 CS：ご本人向け・ご家族むけの2種類で実施済み。達成。 （評価）時期が遅くなったが2種類実施できたことは評価できる。

相談支援センターかしの木

■第1期3か年計画

- 24 計画相談の新規受け入れ人数増のための取り組み
- 25 職員定着のための取り組み
- 26 災害時の事業継続のための取り組み

■2025年度取り組み

24 計画相談の新規受け入れ人数増のための取り組み

実施内容	実績
◆ICT導入計画を立案し試用と2026年度へ向けた予算化。	施行へ向けた予算案を作成。 (評価)導入の目的が「モニタリング回収率向上」を目的とし、音声対応AI、電子署名対応可、の機能を備えた相談支援業務ソフトを想定しているため選択肢が少ない。 また現在の収入ベースで実施した場合に採算は取れるが余裕のない状況であり、精査が必要。

25 職員定着のための取り組み

実施内容	実績
◆業務フロー、マニュアル作成を目的としたミーティングを毎月実施。	毎月の相談支援センターかしの木会議内で各事項を確認。 ・モニタリング予定と実績を共有できるシート作成(4月)。 ・三芳町障がい者生活支援センター事業での業務内容確認(5月) ・モニタリング減算対象となる場合について共有(6月) ・新規計画相談受け入れ条件、緊急対応定義について(7月) ・ICT導入について(12月) ・新人研修案について(1月、2月) ・三芳町福祉課共同の他事業について(2月) ・緊急対応フローについて(3月) (評価)まだ各テーマとも完成してはいないものの、継続して全員で協議することができた。
◆それぞれ相談員が講師となる勉強会を毎月開催。	4月22日、5月27日、9月22日に事例検討会として実施。下半期は開催なし。 (評価)上半期に実施した勉強会においては、職員同士が支援の視点や実務上の工夫を共有する機会となり、一定の意義があった。 一方で、日常業務の多忙さから下半期は実施が困難となり、年間を通した継続的な取り組みとはならなかった。 今後は、業務負担の状況を踏まえつつ、内容や実施方法を簡素化するなど、無理のない形で継続できる体制づくりが課題である。

26 災害時の事業継続のための取り組み

実施内容	実績
◆災害用BCPに沿った訓練の実施。	未実施。自然災害BCPの作成に着手し、内容の検討を進めたが、具体的な災害対応訓練については、年度内の実施には至らなかった。 (評価)自然災害BCPの作成過程を通じて、災害時に想定すべき事象や課題について整理を進めることができたことは一定の成果であった。 一方で、BCPの内容検討に時間を要し、実地訓練まで結びつけることができなかった点は課題として認識している。 今後は、BCPの内容を簡素化・現実的なものに見直した上で、机上訓練や小規模な確認訓練から段階的に実施し、職員が実際に動ける体制づくりを進める必要がある。

地域生活サポートセンター らいと

■第1期3か年計画

- 27 品質の向上、維持して継承していくための取り組み
- 28 求められる職員像の共有と障害理解を深める取り組み
- 29 事業の安定化に向けての取り組み

■2025年度取り組み

27 品質の向上、維持して継承していくための取り組み

実施内容	実績
◆C Sに対して、対応策の検討。 ・良い評価は継続できるような取り組みを、悪い評価に対しては対応策を検討。	2月に利用者満足度アンケートを実施。対応策の検討は未実施。 （評価）アンケートを実施できたことは評価できるが、実施時期が年度末になってしまったことで対応策の検討まで至らなかった。

28 求められる職員像の共有と障害理解を深める取り組み

実施内容	実績
◆求められる職員像の文章化と周知。	未実施 （評価）全く取り組めなかった。新しい職員も入ったので、質を維持するためにも来年度は実施したい。
◆I C Tを活用した事業所内研修の検討。	未実施 （評価）研修を検討する余裕がなかったため、実施できず。来年度は、まず、どんな研修を受けたいのかをヘルパーに確認する作業から取り組みたい。

29 事業の安定化に向けての取り組み

実施内容	実績
◆ヘルパーの空き時間についての調査と別事業所との兼務の可能性を検討。	実施 （評価）正職員のヘルパーについては、空き時間は、ほぼなし。キャンセル等で空き時間が出たとしても事務作業をおこなっているため、兼務の可能性は低い。パート職員に関しては、くろすとの兼務をおこなえている。
◆災害時、感染症発生時におけるB C Pの周知。	実施 （評価）作成と周知はおこなえているが、確認や修正はおこなえていないので、来年度の課題としたい。

のびる作業所

第1期3か年計画

30 安定した運営への取り組み

2025年度取り組み

30 安定した運営への取り組み

実施内容	実績
◆就労継続支援B型の利用率100%の維持。	年間利用率110.3% 4月：122.2% 5月：121.8% 6月：124.2% 7月：123.4% 8月：108.9% 9月：118% 10月：122.1% 11月：100% 12月：97.7% 1月：97.7% 2月：94.5% 3月：92.9% (評価) 年間利用率100%を維持できたことは評価できる。 11月より定員増員をしているため、次年度も利用率管理を継続して行っていく。
◆生活介護の利用率100%の達成。	年間利用率 90.8% 4月：95.5% 5月：94.3% 6月：96.4% 7月：95.1% 8月：88.1% 9月：91.5% 10月：98.9% 11月：89% 12月：94.1% 1月：80.5% 2月：83.0% 3月：83.2% (評価) 年間利用率100%を達成できなかった。11月より定員減員をしているため、次年度も利用率管理を継続して行っていく。
◆事業所年間収益率2.5%の維持。	利益率 133% (評価) 年間利益率の維持が出来たことは評価できる。定員変更があったため注意して見ていくことが必要
◆BCPの定期的な見直しと訓練の実施。	感染症BCP：6月見直し 非常災害BCP：6月見直し 感染症訓練：5月BCPテスト実施、8月ガウンテクニック動画視聴とテスト実施、12月感染症発生時対応訓練の実施。 (評価) 非常災害BCPに基づいた避難訓練を実施。感染症BCPの訓練についても計画通りに実施できている。
◆導入可能な非常電源の調査。	太陽光パネルの業者からの情報収集(7月) (評価) 業者から情報収集を行えたことは評価できる。くろす、入所と共にどのような効果があるのか、大規模修繕の予定などを見て進捗させていく必要がある。
◆多種多様な障害への理解を深める研修への参加。	強度行動障害研修(基礎研修)2名(5月)へ参加 (評価) 近年需要が増えてきている、強度行動障害の理解促進のため研修にできたことは評価できる。今後も計画的に受講していく。
◆復命研修の実施。	実施。2月20日世代間ギャップ研修を実施。 (評価) 実施できたことは評価できる。今後、復命研修の機会を増やし、より、おしえあう、つたえあうを実践していく。
◆ICT、DX、AIの調査。	生成AI実践セミナーへ2名(7月)参加。 (評価) AI実践セミナーに参加し、AIの使用や、どのように運用するのかを学ぶことが出来た。次年度は実践をしていく。
◆CSの実施。	実施。 (評価) 2月27日に回収し、分析を行えたことは評価できる。次年度早々にHPに公表していく。また、課題と挙げられたことに対し工夫をしていく。

のびる作業所：就労支援係

■第1期3か年計画

- 31 一般就労への意欲を高める支援の強化
- 32 個々の能力をのばせる取り組み

■2025年度取り組み

31 一般就労への意欲を高める支援の強化

実施内容	実績
◆施設外就労参加利用者の適正の再評価。	評価表の作成。月ごとに参加者の評価を実施。2名の方を追加。 (評価) 施設外就労参加者の適正を日々評価し、継続的に見直しを行った結果、新たに2名の利用者を追加することができた。
◆一般就労への理解を深める取り組みの検討。	利用者目標の設定。月ごとに、目標に沿った内容の支援を強化。 (評価) 一般就労への理解を深める取り組みについては、月ごとの目標を設定し周知することはできたものの、具体的な理解につながる支援は十分とは言えなかった。来年度は、実践的な学習機会の充実や個々の課題に応じた支援方法の見直しを行い、より効果的に一般就労への理解を深められる支援の提供をする。
◆作業工賃支給方法の検討。	実施。 (評価) 作業収入の面から考え、年度末に特別手当を支給。次年度からも検討していく。

32 個々の能力をのばせる取り組み

実施内容	実績
◆就労継続支援B型プログラムの見直し、検討。	実施。毎週月、木、金曜日午前中に、身体運動、創作活動、SSTの集団活動の実施。 (評価) 利用者の気分転換、コミュニケーション能力の向上、体力や集中力の維持に一定の効果が認められた。その反面、参加利用者に偏りが見られたことが課題として挙げられる。今後は参加に向けた働きかけや、利用者の状況に応じた調整とプログラムを検討を行う。
◆作業効率を考えた活動場所の検討。	実施。利用者の能力と作業タオルの種類のマッチングをし、効率向上へ向け作業配置変更を実施。 (評価) 効率面では一定の成果が得られたが、提供内容が偏る傾向が見られた。
◆安定した作業量確保の検討。	実施。5月～新たにダイオーズジャパン(株)と契約をし美容院で使用したタオルの作業を開始。 (評価) 新たな企業との契約でき、一定の作業収入を得ることが出来た点は評価できる。しかし、現状では作業収入が十分とは言えず、引き続き作業量の確保に努めていく必要がある。
◆文化芸術活動への参加。	実施。法人文化作品展、めぐみ祭りアートギャラリー展に参加。 (評価) 恒例行事には継続して取り組むことができた。しかし、新たな機会の開拓には至らず、今後の課題となった。

のびる作業所：就労生活介護係

■第1期3か年計画

33 より充実した活動に向けた取り組み

■2025年度取り組み

33 より充実した活動に向けた取り組み

実施内容	実績
◆新たな活動内容の検討、実施。	検討済み。I c o i l 開所に伴い活動内容の再検討、再構築を行った。11月より、屋外活動とわくわく活動を実施。 （評価）年間を通して計画的に実施し、安定して活動を提供できた。利用者からも概ね好評を得ている。また、屋外活動についても複数の外出先を確保し、活動の幅を広げることができた。次年度は、これらの取り組みを継続しながら内容を評価し、より充実した活動提供につなげていく
◆生産活動の再評価。	実施。I c o i l 開所に伴い、利用者の特性による作業内容や、作業量の再評価を実施。 （評価）生産活動の再評価を行い、新たな内職の導入も検討した。しかし、現状の内職量を十分に処理できておらず、導入は見送っている。現行の内職量を安定して処理できる体制を整えるとともに、利用者の障害特性に沿った生産活の実施を検討していく。
◆文化芸術活動への参加。	実施。法人文化作品展、めぐみ祭りアートギャラリー展に参加。 （評価）恒例行事には継続して取り組むことができた。しかし、新たな機会の開拓には至らず、今後の課題となった。
◆社会性やマナーを身に着ける取り組みの検討。	実施。8月 マナー講座実施。 （評価）社会性やマナー習得の取り組みを検討し、8月にマナー講座を実施した。しかし、それ以外の具体的な取り組みは行えず、継続的な支援体制の構築が課題となった。

すてっぷ・いっぽ

■第1期3か年計画

- 34 事業の最適化・安定化への取り組み
- 35 CSへの取り組み
- 36 安全で安心できるくらしの取り組み

■2025年度取り組み

34 事業の最適化・安定化への取り組み

実施内容	実績
【すてっぷ】 ◆短期入所事業の安定した利用に向けた取り組みを実施。	・契約者数8名 - 新規契約数 3名 - 利用者数 6名 - 利用延べ日数 84日 - 利用率約 23% ・しばらく利用の無い方への連絡 ・入居希望者への利用の検討 ・入居希望の方へ利用に関する確認 ・新規利用の相談、面談等調整 ・他事業所相談員に情報提供 ・パンフレット作成 〈評価〉前年度より利用率が増加したことは評価できる。しかし他事業所への入所など利用率が伸びなかったことは課題となった。新規利用獲得に向けた取り組みが必要。
【いっぽ】 ◆いっぽの移転に向けた取り組みを実施。	・2月現在のいっぽ利用者と家族に移転先について説明 3/6 法人職員へ説明会実施 3/8 と 3/16 地域の方向けの説明会実施 ・定期的にいっぽ会議内で進捗確認 〈評価〉8月の移転に向けて地域の方向け説明会では、多くの参加者があったことは評価できる。 今後の予定としては、新規利用者の獲得や日中活動の調整等引き続き取り組みを実施していく。
【共通】 ◆ICTやAI等の導入へ向けた検討 ◆事業の効率化や運営コストの検討。	【すてっぷ】 ・Teamsのチャット機能を活用し部署内の掲示板として活用 【いっぽ】 ・10月に国際福祉機器展に職員1名が参加しAI等の情報収集をおこなった 〈評価〉情報収集できたことは評価できる。

35 CSへの取り組み

実施内容	実績
【共通】 ◆定期的なCS調査の実施と評価。	・11月実施【すてっぷ】 〈評価〉利用者・ご家族から様々なご意見を聞けたことは評価できる。事業所内、法人HPでの公表を進めていく。今後も定期的の実施していく。 ・12月実施【いっぽ】 〈評価〉移転先でも検討できる内容が意見として聞けたことは評価できる。

36 安全で安心できるくらしの取り組み

実施内容	実績
【すてっぷ】 ◆空調設備などの付帯設備の修繕の実施。	・実施 10月・居室エアコン修理 1月・すてっぷⅡ外水栓修理 3月・すてっぷⅡ給湯器2カ所修理、交換 〈評価〉迅速に対応できたことは評価できる。付帯設備の劣化や維持方法等が検討課題として残った。
【いっぽ】 ◆迅速な医療への連携と通院対応のための訪問医療導入の検討。	迅速な医療への連携（【いっぽ】） ・1名の利用者が新たに訪問歯科を受け、毎月2回の受診を受けている。また、2名の利用者に関して往診 Dr. の話もあり検討できている。 〈評価〉往診 Dr. の情報収集ができ、家族に情報提供できたことは評価できる。今後は本人、ご家族の考えを聞き調整していく事が必要。
【共通】 ◆災害に対する取り組み ・BCPの定期的な見直し ・BCPに基づいた防災食の備蓄 ・定期的な避難訓練の実施 ・非常電源設備導入の検討。	●BCPの見直し 【すてっぷ・いっぽ】 ・実施。現状に合わせた見直しを行った。 ●防災食の備蓄 【すてっぷ】 ・かしの木と共有している。 【いっぽ】 ・見直しを行い備蓄数の変更等の修正をおこなった。 ●避難訓練 【すてっぷ】 ・7月、2月避難訓練実施 【いっぽ】 ・10月、2月避難訓練実施 【いっぽ】 非常電源 【すてっぷ・いっぽ】 ・未実施
◆感染症に対する取り組み ・BCPの定期的な見直し。 ・BCPに基づいた感染対策用具の備蓄。 ・持続可能な感染症対策を実施。	●BCPの見直し 【すてっぷ・いっぽ】 ・実施。人事異動による様式の変更を行った 〈評価〉現状に合わせた見直しを行ったことは評価できる。 ●対策用具の備蓄 【すてっぷ・いっぽ】 ・継続して実施している ●感染症対策 【すてっぷ・いっぽ】 ・継続して実施している
◆防犯に対する取り組みを実施。 ・防犯グッズの設置 ・防犯ライトの設置 ・防犯カメラの設置の検討	●防犯グッズの設置 ・防犯ブザー購入 ・使用期限の確認 ●防犯ライトの設置 【すてっぷ】 ・2台設置済み（増設なし） ●防犯カメラの設置の検討 ・次年度設置に向け現調のみ実施 〈評価〉事業所に合ったグッズの準備が行えた。防犯カメラはCSでも必要の意見があり設置について検討を行う。

I. 安全・衛生・働きやすさ部会 事業報告

■ 1. 2025年度の主な取り組み

- ・定例会議（毎月第3（水）3:00～）12回開催
- ・労働災害（通勤災害含む）と特定行為に関する事故及びヒヤリハット報告の確認
- ・「健康宣言（STEP2）」への取り組み（前年度から継続）
- ・エコ活動として、「節水・節電ポスター」を作成掲示し呼び掛けを実施
- ・産業医による講話
 - 4月「带状疱疹のワクチンについて」 5月「麻疹について」、
 - 6月「職場における熱中症対策が義務化へ」 7月「気象病」 8月「細菌とウイルスとの違い」
 - 9月「消毒液の種類」 10月「いびきの原因と解決策」 11月なし
 - 12月「大人のADHDとは」 1月「皮脂欠乏症」 2月「花粉を寄せ付けないちょっと工夫」
 - 3月「副鼻腔炎について」
- ・「熱中症対策マニュアル」の策定（各事業所単位）
- ・8/21「メンタルヘルスマネジメント研修（管理者向け）」受講
- ・ストレスチェック実施と分析結果の読み込み、課題の分析

■ 2. 成果・実績

- ・労働災害 2件 通勤災害 1件 特定行為ヒヤリハット報告 0件
- ・「健康宣言（STEP2）」100点中90点獲得し、協会けんぽより認定承認。
「運動」「禁煙」に関する評価が低いことが分かり、これらについて運動プログラムの提案と実施呼びかけをおこなうと共に、「運動」と「禁煙」に関するオンデマンド動画研修をおこなった。「禁煙」に関しては次年度職員アンケートを実施予定。
- ・ストレスチェック対象者100名中77名回答（回答率77%）男性30名/女性47名
内10名が高ストレスであった。

■ 5. まとめ、その他

2022年度より協会けんぽによる「健康宣言」へ参加表明しており、「STEP2 認定」に向けた取り組みを実施し、今年度認定された。「運動」と「禁煙」に関する内容への評価が低く、職員向けに提案及び呼びかけや動画配信を実施した。

「ストレスチェック」は実施後、例年同様に法人全体や部署ごとの分析をおこなった。分析結果を元に各部署で職員の労働環境やコンディション改善のための要因と働きかけについて次年度継続して取り組んでいく。

Ⅱ. 感染症対策委員会 事業報告

■ 1. 2025年度の主な取り組み

- ・会議 毎月1回開催（BCP変更・職員や利用者の感染者数や事業継続支援チーム手動有無報告）。
- ・感染予防対策として、職員や利用者の歯磨き後の洗面台消毒の実施。
- ・感染症対策指針および感染症発生時における業務継続計画（BCP）の内容確認テスト実施（5月）。
- ・感染症まん延防止のためのシミュレーション訓練として、ガウンテクニック動画視聴実施後に職員個々の手技をチェックし、実施報告書作成（8～9月）。
- ・感染症発生時における業務継続計画（BCP）を利用した行動確認テスト実施（10～11月）。
- ・BCPに基づく感染症発生時の対応訓練および報告書作成。

■ 2. 成果・実績

- ・上期に実施した感染症対策指針および感染症発生時における業務継続計画（BCP）の内容確認テスト、下期に実施した感染症対策指針および感染症発生時における業務継続計画（BCP）の内容確認テストとも対象者全員の回答を得られた。
- ・ガウンテクニック動画視聴・実技チェックの実施報告書作成までを1事業所を除いて行うことができた。
- ・BCPに基づく感染症発生時の対応訓練に関して、今年度は訪問系事業所は実際の動きを動画視聴で学び実施報告書作成とし、ほぼ全事業所が実施できている。
- ・感染予防対策の洗面台消毒に関しては、事業所ごとにポスター掲示や会議での呼びかけを行い継続出来ている。

■ 5. まとめ、その他

感染症対策委員会では、「感染管理体制の継続・各事業所の感染予防に関する日頃の対策の維持・新型コロナウイルス等感染発生時に感染拡大を防ぎ各事業所の事業を停止せずに継続できる」という活動目標に向かって概ね計画的に実施できた。

どの事業所もインフルエンザやコロナに罹患した職員はいたが、感染拡大なく業務を継続することができた。

シミュレーション研修では、訪問系事業所のガウンテクニック実技チェック方法が今後の課題である。

Ⅲ. 虐待防止委員会 事業報告（１）

■ １． ２０２５年度の主な取り組み

《啓発関係》

- ①全事業所に対し、虐待防止自己チェックリストアンケート入力（６月）（１１月）、結果について各事業所ごとに分析、検討（９月）
- ②虐待グレーゾーン自己評価表アンケート入力（８月）（３月）、結果を分析、各事業所ごとに検討（９月）（３月）
- ③虐待防止 WEEK（７月、１０月、２月）
 - ・館内放送での周知
 - ・声掛けの言い換えワークを各事業所ごとに実施
 - ・ポスター掲示
 - ・朝礼、申し送りでの実施期間周知
 - ・利用者インタビュー、職員向け掲示

《研修関係》

- ・職員向け虐待防止グレーゾーン研修
（７月１１日、８月８日、１０月１０、３０日、１１月１４日、１２月１２日、３月２４日）
講義形式にて虐待の定義や通報義務についての振り返り
- ・個人ワークおよびグループワークを研修不参加だった職員に実施。
- ・外国籍向け研修
- ・埼玉県主催虐待防止研修（オンライン）に委員会メンバー２名参加

■ ２． 成果・実績

座学およびグループワークを主体とした虐待防止・権利擁護研修を計 7 回実施し、主な対象は法人職員約 120 名とし、延べ参加者は 80 名であった。

欠席者については、同内容のワークシートを用いたフォローを実施し、理解の補完を図った。

三芳地区に職員が集まる形での実施を基本としつつ、参加が難しいふじみ野地区（いっぽ）に対して出張研修を 1 回実施。

2025 年 11 月に開所した icoil について、事業所からの要望を受け、3 月に追加研修を実施するなど、事業所の状況に応じた対応を行った。

外国籍職員については、日本語でのグループワークが難しいケースがあったため、国別に分けた対応を行い、法人内担当が 4 か国分の対応を終了した。

また、委員 2 名が、県主催の虐待防止研修にオンラインで参加し、最新の知見や制度動向の把握に努めた。

研修内容については、職種や経験年数により「グレーゾーン」「アセスメント」といった概念が理解しにくい職員がいることを踏まえ、イラストや実体験を交えたスライドを追加し、分かりやすさの向上を図った。

②啓発チームの取り組み

虐待防止ウィークの取り組みとして、以下の活動を実施した。

虐待防止に関するポスター掲示、職員から利用者への声かけを見直す言い換えワーク、利用者インタビューなど 1 年の間に計 3 回行った。

職員個人向けの取り組みとして、虐待防止チェックリスト、グレーゾーン自己評価表の 2 種類のワークシートを用いた取り組みを年 2 回実施した。

2 回目の実施後は、事業所ごとに結果を持ち帰り、振り返りや意見交換を実施することで、効果測定と法人内での共通認識づくりにつなげた。

Ⅲ. 虐待防止委員会 事業報告（２）

■ ５．まとめ、その他

年間を通じて、研修・啓発の両面から虐待防止および権利擁護に関する取り組みを継続的に行うことができた。

特に研修では、座学だけでなくグループワークや事例検討を重視したことで、「グレーゾーンは虐待の芽である」という認識を職員間で共有する機会となった。

出張研修や追加実施、外国籍職員への配慮など、事業所や職員の状況に応じた柔軟な対応を行えた点は評価できる。

啓発チームの取り組みでは、ポスター掲示やワークシートの活用により、一過性で終わらない意識づけにつなげることができた。

一方で、業務多忙な現場において、研修時間の確保や参加方法には引き続き課題があり、今後は短時間・オンライン活用など、参加しやすい形の検討が必要である。

次年度以降は、今回得られた事業所ごとの振り返り結果を活用し、より現場に即した内容へと研修・啓発活動を発展させていくことが求められる。

IV. 広報委員会 事業報告（1）

■ 1. 2025年度の主な取り組み

- ・委員会会議
- ・facebook、Instagram 公式アカウントの投稿計画策定と運用
- ・H.C.R.2025 参加
- ・新法人パンフレット作成
- ・めぐみ祭り広報
- ・KCC FES
- ・法人オリジナル MV 作成

■ 2. 成果・実績

- ・SNS 投稿：instagram 閲覧数合計 約 146,000PV 新規フォロー 322 件
- ・H.C.R.2025 参加 福祉の魅力発見ゾーン企画参加 HCR 公式生配信参加
- ・新法人パンフレット案作成
- ・めぐみ祭り 関連 YOUTUBE 動画閲覧数合計 約 5,400 再生
- ・KCC FES 実施 関連 YOUTUBE 動画閲覧数合計 約 8,600 再生
- ・法人オリジナル MV 作成 HCR 会場で放映

■ 5. まとめ、その他

広報委員会では、法人および各事業所の魅力発信、地域との接点づくり、採用広報強化を目的として、以下の取り組みを実施しました。

《委員会会議の実施》

定期的に委員会会議を開催し、広報方針・年間計画・媒体運用・イベント発信等について協議を行いました。

《SNS 公式アカウント運用》

Facebook・Instagram 公式アカウントを中心に、法人の日常や取り組み、イベント情報、職員紹介等を継続的に発信しました。

投稿計画を策定し、統一感のある広報運用を行いました。

《H.C.R.2025 参加》

H.C.R.2025（国際福祉機器展）へ参加し、「福祉の魅力発見ゾーン」企画への参加および、HCR 公式生配信への出演を行いました。

法人の取り組みや、これからの福祉の可能性について外部へ発信する機会となりました。

《新法人パンフレット作成》

法人全体のブランドイメージを再整理し、新たな法人パンフレット案を制作しました。

事業内容だけでなく、“めぐみ会らしさ”が伝わる構成を意識して作成を進めました。

《めぐみ祭り広報》

めぐみ祭りに合わせ、SNS・動画媒体を活用した広報を実施しました。

イベント前後の情報発信を強化し、地域との接点づくりに取り組みました。

《KCC FES 実施》

KCC FES を開催し、福祉・アート・食・e-sports等を掛け合わせた新しい福祉発信を行いました。

イベント広報や動画発信を通じ、多くの方へ法人活動を知っていただく機会となりました。

《法人オリジナル MV 作成》

法人オリジナル MV（ミュージックビデオ）を制作しました。

H.C.R.2025 会場内でも放映を行い、視覚的・感覚的に法人の世界観を発信しました。

IV. 広報委員会 事業報告（2）

■総括

2025 年度は、SNS 運用・映像制作・イベント広報・外部発信を中心に、従来の福祉広報の枠にとらわれない取り組みを展開しました。

特に、動画コンテンツやイベント型広報を通じて、法人の雰囲気や価値観を“伝える”だけでなく、“体感してもらう”広報へと発展させることができました。

今後も、地域・求職者・関係機関へ向けて、法人の魅力や取り組みを継続的に発信し、広報活動を推進していきます。

V. 行事委員会 事業報告

■1. 2025年度の主な取り組み

- ・会議 12 回開催 毎月第 2 木曜日実施（めぐみ祭り、文化作品展、大掃除について）
- ・めぐみ祭りの内容並びに準備について。9 月 28 日に開催
- ・文化作品展の実施日程内容について。7 月 21 日～7 月 28 日に実施
- ・大掃除の実施日程実施方法について。11 月 30 日実施

■2. 成果・実績

- ・めぐみ祭りの来場者数 306 人（利用者含む）来場者数が当初の計画よりも多く来場され法人の認知も広がるような祭りとなったボランティアのアンケートも大変好評だった
- ・文化作品展を各事業所に横断的に実施。展示を見学している利用者や来所差もおりおおむね好評であった。
- ・大掃除を各事業所にて実施。事故もなく概ね問題なく実施する事が出来ていた。ご家族と職員とのコミュニケーションも生まれていた。

■5. まとめ、その他

- ・行事委員会では、主にめぐみ祭りに関して、昨年度から検討を重ね大きな事故もなく無事開催することが出来た。来場者も 306 人と想定を上回る人数の参加により、地域における法人認知の高さがうかがえた。
文化作品展に関しては各事業所の利用者の作品作りや、それを見てもらうことによって活動の質の向上に寄与することが出来たと考えている。
- ・大掃除に関して、今年は 11 月に実施し、概ね問題なく行えた。
また 12 月の忙しい時期に比べ余裕をもって実施することが出来た。
事業所によっては職員と家族のいいコミュニケーションの場になっていた。

VI. 事故防止部会 事業報告

■ 1. 2025年度の主な取り組み

- ・事故防止部会 定例会議月1回第4水曜日 14時～開催
4/23・5/28・6/25・7/23・8/27・9/24・10/22・11/26・12/24・1/28・2/25・
3/25 実施
- ・事故・ヒヤリ検証 毎月各事業所から上がった事故報告・ヒヤリハットの検証
- ・事故報告システムの管理
- ・ヒヤリハットへの取り組み ヒヤリハット報告数向上の取り組み
- ・リスクマネジメントに関する外部研修参加への取り組み
- ・職員研修開催に向けた検討と実施
- ・交通安全週間の取り組み

■ 2. 成果・実績

- ・ヒヤリハット報告数向上は、年間通し事業所ごとにばらつきあり、全体的な報告数向上にはつながらなかった。
- ・リスクマネジメント研修の人選をおこない、受講者7名が11月の外部研修を受講した。
- ・事故報告システムの不具合が発生した際に原因究明し修復をおこなった。
- ・交通安全週間の取り組み、春（4/6～4/10実施）秋（9/21～9/30実施）ポスター掲示の啓発活動をおこなった。各事業所事故等発生は無く、安全運転に対する意識の向上につながった。
- ・職員研修（KYT研修）の実施。1月19日～23日におこなった。

■ 5. まとめ、その他

今年度は、事故報告システムの不具合対応や入力方法の統一化をおこない、報告体制の安定化を図ることができた。春・秋の交通安全週間では、各事業所が独自の取り組みを行い、期間中の事故ゼロを達成するなど、安全意識の向上が見られた。

また、リスクマネジメント研修やKYT研修を計画通り実施し、職員の知識向上にもつながった。

一方で、ヒヤリハット報告数は事業所間でかなりの差があり、全体的な向上には至らなかった。

次年度は、報告しやすい方法や環境づくり、意識啓発を強化し、ヒヤリハット報告の活性化に重点的に取り組んでいきたい。

Ⅶ. 防災・防犯部会 事業報告

■ 1. 2025年度の主な取り組み

- ・避難訓練の実施（かしの木、くろす、のびる、すてっぷ、いっぽ各2～3回）
- ・防犯訓練（かしの木、くろす、のびる各1回）
- ・災害用BCP確認テスト（全職員）
- ・自主点検（かしの木、くろす、のびる、すてっぷ、いっぽ各2回）
- ・防火管理者、消防計画変更、届け出
- ・消防設備点検（かしの木、くろす、のびる、すてっぷ、いっぽ各2回）
- ・会議実施（計12回）

■ 2. 成果・実績

- ・訓練実施率：100%（10/10回）
- ・点検実施率：100%（10/10回）
- ・防火管理者、消防計画遅滞なく変更済み。
- ・ブラインド訓練により実際に近い想定でのシュミレーション訓練となった。

■ 5. まとめ、その他

2025年度は、避難訓練9回、防犯訓練2回、炊き出し訓練1回、消防設備点検10回、自主点検10回を計画通り実施し、全職員対象のBCP確認テストも完了しました。

防火管理者選任や消防計画変更・届け出を遅滞なく行い、法令遵守を確保。

大規模災害、ライフライン停止時を想定した備えの検討、さらに、12回の会議で課題共有と改善策を協議し、職員の防災意識や連携体制が強化されました。

これらの取組により、緊急時対応力の向上と安全管理体制の実効性が高まり、施設運営の信頼性向上に寄与しました。

Ⅷ. 苦情解決委員会 事業報告

2025年度に各事業所で受付けた苦情は5件でした。

職員の接遇に関する苦情1件、送迎バスに関する苦情1件、支援内容に関する苦情2件、施設内の環境整備に関する苦情1件となっています。

受付けた苦情は苦情解決委員会で共有・検討され、必要な対応を行いました。

接遇に関する苦情、施設内の環境整備に関する苦情については度々受付けているものであり、内容を各部会と可能な範囲で共有し対策を検討するとともに具体的な活動を通して再発防止が図られるよう努めてまいります。

2025年度決算報告

2025年度決算報告について

2025年度は、ふじみ野市に新たに「icoil」を開設し、無事に事業運営を開始することができました。あわせて、地域生活サポートセンターらいとをふじみ野へ移転し、三芳町・ふじみ野市それぞれの地域特性を活かしたエリア体制の構築を進めてまいりました。

また、各事業所において経営課題の改善・解決に取り組んだことが、収入面にも一定の成果として表れた年度となりました。一方で、継続する物価高騰の影響に対しては、運営面の工夫やコスト管理の見直しなど、安定した事業継続に向けた対策にも取り組んでまいりました。

さらに、組織の持続的な成長を支える基盤づくりとして、人財育成にも一層注力し、職員一人ひとりのスキル向上と組織力の強化に努めてまいりました。

これらの取り組みを踏まえ、2025年度の決算内容についてご報告いたします。

事業活動収入は892,523,918円で、対予算12,869,918円増額、対前年102,145,782円増額という結果でした。主な要因はかしの木・くろすの事業分離、各サービスの利用率増加や過年度分短期入所サービスの過誤請求による増収および、新設のicoilによる増収となりました。

人件費については、539,371,932円で、対予算1,363,068円減額、対前年32,380,080円増額、という結果でした。

事業費は、122,278,874円、対予算792,126円減額、対前年13,334,661円増額であり、事務費は122,475,084円、対予算4,420,916円減額 対前年6,370,755円増額という結果でした。

人件費、事業費、事務費の対前年増加分については、新設icoilの準備および運営による経費増加が影響したと考えられます。

その他の活動による収支は、109,773,400円、内訳として長期運営資金借入金収入99,000,000円 長期貸付金回収5,040,000円、積立資金取崩収入5,733,400円。その他の活動による支出は102,172,400円、内訳として積立資産支出102,172,400円という結果でした。

当期資金収支差額は29,785,379円であり、対予算29,785,379円増額、対前年29,303,988円増額という結果でした。

2025 年度決算内訳

科 目	予算執行状況																						
収入の部	事業活動収入計 892,523,918 円 対予算 12,869,918 円増 対前年 102,145,782 円増 対前年増減の要因 増加要因（対前年） <table> <tr> <td>相談</td><td>423,753 円増</td></tr> <tr> <td>生活介護（かしの木）</td><td>21,999,012 円増</td></tr> <tr> <td>入所</td><td>4,252,582 円増</td></tr> <tr> <td>短期入所</td><td>37,431,235 円増</td></tr> <tr> <td>くろす</td><td>18,987,021 円増</td></tr> <tr> <td>のびる継続支援B型</td><td>1,455,761 円増</td></tr> <tr> <td>すてっぷ</td><td>4,310,484 円増</td></tr> <tr> <td>icoil（新設）</td><td>18,227,147 円増</td></tr> </table> 減少要因（対前年） <table> <tr> <td>のびる生活介護</td><td>1,539,021 円減</td></tr> <tr> <td>らいと</td><td>3,052,081 円減</td></tr> <tr> <td>作業収入</td><td>770,254 円減</td></tr> </table>	相談	423,753 円増	生活介護（かしの木）	21,999,012 円増	入所	4,252,582 円増	短期入所	37,431,235 円増	くろす	18,987,021 円増	のびる継続支援B型	1,455,761 円増	すてっぷ	4,310,484 円増	icoil（新設）	18,227,147 円増	のびる生活介護	1,539,021 円減	らいと	3,052,081 円減	作業収入	770,254 円減
相談	423,753 円増																						
生活介護（かしの木）	21,999,012 円増																						
入所	4,252,582 円増																						
短期入所	37,431,235 円増																						
くろす	18,987,021 円増																						
のびる継続支援B型	1,455,761 円増																						
すてっぷ	4,310,484 円増																						
icoil（新設）	18,227,147 円増																						
のびる生活介護	1,539,021 円減																						
らいと	3,052,081 円減																						
作業収入	770,254 円減																						

科 目	予算執行状況
支出の部 人件費支出	人件費 539,371,932 円 対予算 1,363,068 円減 対前年 32,380,080 円増
事業費支出	事業費 122,278,874 円 予算 792,126 円減 対前年 13,334,661 円増 対予算・対前年増減の要因 給食費 28,687,450 円 対予算 315,450 円増 対前年 5,746,520 円増 教養娯楽費 3,253,591 円 対予算 135,409 円減 対前年 642,600 円増 水道光熱費 25,087,674 円 対予算 7,674 円増 対前年 321,063 円減 土地建物賃借料 18,399,860 円 対予算 405,860 円増 対前年 4,782,860 円増
事務費支出	事務費 122,475,084 円 対予算 4,420,916 円減 対前年 6,370,755 円増 対予算・対前年増減の要因 福利厚生費 5,117,962 円 対予算 522,962 円増 対前年 942,727 円増 研修研究費 3,374,904 円 対予算 330,904 円減 対前年 851,590 円増 修繕費 7,204,029 円 対予算 316,971 円減 対前年 3,405,365 円増 手数料 4,039,450 円減 対予算 120,450 円増 対前年 2,529,435 円減
就労支援事業支出	就労支援事業支出 32,244,052 円 対予算 604,948 円減 対前年 2,911,046 円増

科 目	予算執行状況
その他活動収支出の部	その他の活動収入 109,773,400 円 対予算 97,994,400 円増 [主な内訳] 長期運営資金借入金収入 99,000,000 円 (内訳) かしの木借入 60,000,000 円 icoil 借入 39,000,000 円 長期運営資金借入金収入 5,040,000 円 積立資金取崩収入 5,040,000 円 (内訳) 退職給付引当資産取崩収入 983,400 円 修繕積立資産取崩収入 4,390,000 円 (のびる作業所ボイラー購入分) 工賃変動積立資産取崩収入 360,000 円 その他の活動支出 102,172,400 円 対予算 96,457,200 円増 [主な内訳] 積立資産支出 102,172,400 円

資金収支内訳表

(自)令和07年04月01日 (至)令和08年03月31日

(単位:円)

勘定科目		社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	法人合計	
事業活動による収支	収入						
	就労支援事業収入	32,247,266	0	32,247,266	0	32,247,266	
	障害福祉サービス等事業収入	833,467,078	0	833,467,078	0	833,467,078	
	生活困窮者に対する相談支援事業収入	15,429	0	15,429	0	15,429	
	その他の事業収入	0	17,006,220	17,006,220	0	17,006,220	
	経常経費寄附金収入	573,000	0	573,000	0	573,000	
	受取利息配当金収入	342,310	0	342,310	0	342,310	
	その他の収入	8,872,615	0	8,872,615	0	8,872,615	
	事業活動収入計(1)	875,517,698	17,006,220	892,523,918	0	892,523,918	
	支出						
	人件費支出	539,251,932	120,000	539,371,932	0	539,371,932	
	事業費支出	116,971,386	5,307,488	122,278,874	0	122,278,874	
	事務費支出	110,893,034	11,582,050	122,475,084	0	122,475,084	
施設整備等による収支	就労支援事業支出	32,244,052	0	32,244,052	0	32,244,052	
	生活困窮者に対する相談支援事業支出	15,429	0	15,429	0	15,429	
	支払利息支出	2,307,092	0	2,307,092	0	2,307,092	
	事業活動支出計(2)	801,682,925	17,009,538	818,692,463	0	818,692,463	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	73,834,773	-3,318	73,831,455	0	73,831,455	
	収入						
	施設整備等補助金収入	9,185,000	0	9,185,000	0	9,185,000	
	施設整備等収入計(4)	9,185,000	0	9,185,000	0	9,185,000	
	支出						
	設備資金借入金元金償還支出	28,884,000	0	28,884,000	0	28,884,000	
	長期運営資金元金償還支出	6,981,000	0	6,981,000	0	6,981,000	
	固定資産取得支出	23,828,600	0	23,828,600	0	23,828,600	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	1,138,476	0	1,138,476	0	1,138,476	
	施設整備等支出計(5)	60,832,076	0	60,832,076	0	60,832,076	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-51,647,076	0	-51,647,076	0	-51,647,076	
その他の活動による収支	収入						
	長期運営資金借入金収入	99,000,000	0	99,000,000	0	99,000,000	
	長期貸付金回収収入	5,040,000	0	5,040,000	0	5,040,000	
	積立資金取崩収入	5,733,400	0	5,733,400	0	5,733,400	
	事業区分間繰入金収入	0	5,000	5,000	-5,000	0	
	その他の活動収入計(7)	109,773,400	5,000	109,778,400	-5,000	109,773,400	
	支出						
	積立資産支出	102,172,400	0	102,172,400	0	102,172,400	
	事業区分間繰入金支出	5,000	0	5,000	-5,000	0	
	その他の活動支出計(8)	102,177,400	0	102,177,400	-5,000	102,172,400	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	7,596,000	5,000	7,601,000	0	7,601,000	
当期資金収支差額(10)=(3)+(6)+(9)		29,783,697	1,682	29,785,379	0	29,785,379	
前期末支払資金残高(11)		149,024,381	0	149,024,381	0	149,024,381	
当期末支払資金残高(10)+(11)		178,808,078	1,682	178,809,760	0	178,809,760	

財 産 目 録

令和8年3月31日現在

(単位 : 円)

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
I 資産の部						
1 流動資産						
現金預金						
小口現金	本部			9,522		9,522
小口現金	いっば			89,856		89,856
小口現金	のびる			11,525		11,525
小口現金	くろす			6,463		6,463
小口現金	らいと			7,297		7,297
小口現金	かしの木			29,861		29,861
小口現金	icoil			42,386		42,386
小口現金	すてっぶ			8,509		8,509
普通預金	埼玉りそな鶴瀬支店 普通3811529			261,109		261,109
普通預金	埼玉りそな鶴瀬支店 普通3851798			72,492		72,492
普通預金	埼玉りそな鶴瀬支店 普通4179413			8,150,119		8,150,119
普通預金	埼玉りそな鶴瀬支店 普通3811768			33,132,460		33,132,460
普通預金	埼玉りそな鶴瀬支店 普通3811826			11,283,364		11,283,364
普通預金	埼玉縣信用金庫			3,141,119		3,141,119
小計				56,246,082		56,246,082
未収金						
未収金	かしの木		国民健康保険団体2月・3月等	139,463,988		139,463,988
未収金	すてっぶ		国民健康保険団体2月・3月等	16,141,197		16,141,197
未収金	のびる		国民健康保険団体2月・3月等	26,563,849		26,563,849
未収金	ふじみ野スペース		国民健康保険団体2月・3月等	12,722,196		12,722,196
小計				194,891,230		194,891,230
立替金						
立替金	本部		職員他	905,674		905,674
立替金	かしの木		利用者	90,880		90,880
立替金	すてっぶ		利用者医療費	0		0
立替金	のびる		のびる食事他	469,005		469,005
立替金	ふじみ野スペース		icoil食事	217,580		217,580
小計				1,683,139		1,683,139
前払金						
前払金	すてっぶ		賃借代4月分	1,119,000		1,119,000
小計				1,119,000		1,119,000
前払費用						
前払費用	すてっぶ		更新手数料	650,890		650,890
前払費用	ふじみ野スペース		icoil賃貸料	990,000		990,000
小計				1,640,890		1,640,890
仮払金						
仮払金	法人本部		奨学金等	2,296,300		2,296,300
仮払金	法人本部		その他	201,095		201,095
仮払金	かしの木		その他	570,548		570,548
小計				3,067,943		3,067,943
流動資産合計						258,648,284

法人単位資金収支計算書

(自)令和07年04月01日 (至)令和08年03月31日

(税込) (単位: 円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差異(A)-(B)	備 考
事業活動による収入	就労支援事業収入	32,849,000	32,247,266	601,734	
	障害福祉サービス等事業収入	819,268,000	833,467,078	-14,199,078	
	生活困窮者に対する相談支援事業収入	100,000	15,429	84,571	
	その他の事業収入	17,007,000	17,006,220	780	
	経常経費寄附金収入	1,000,000	573,000	427,000	
	受取利息配当金収入	70,000	342,310	-272,310	
	その他の収入	9,360,000	8,872,615	487,385	
	事業活動収入計(1)	879,654,000	892,523,918	-12,869,918	
	人件費支出	540,735,000	539,371,932	1,363,068	
	事業費支出	123,071,000	122,278,874	792,126	
事業活動による支出	事務費支出	126,896,000	122,475,084	4,420,916	
	就労支援事業支出	32,849,000	32,244,052	604,948	
	生活困窮者に対する相談支援事業支出	100,000	15,429	84,571	
	支払利息支出	2,876,000	2,307,092	568,908	
	事業活動支出計(2)	826,527,000	818,692,463	7,834,537	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	53,127,000	73,831,455	-20,704,455	
施設整備等による収入	施設整備等補助金収入	9,205,000	9,185,000	20,000	
	施設整備等収入計(4)	9,205,000	9,185,000	20,000	
	設備資金借入金元金償還支出	30,423,000	28,884,000	1,539,000	
	長期運営資金元金償還支出	6,230,000	6,981,000	-751,000	
	固定資産取得支出	24,380,000	23,828,600	551,400	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	1,032,000	1,138,476	-106,476	
	施設整備等支出計(5)	62,065,000	60,832,076	1,232,924	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-52,860,000	-51,647,076	-1,212,924	
その他の活動による収入	長期運営資金借入金収入	99,000,000	99,000,000	0	
	長期貸付金回収収入	5,040,000	5,040,000	0	
	積立資金取崩収入	5,201,000	5,733,400	-532,400	
	その他の活動収入計(7)	114,540,000	109,773,400	4,766,600	
	積立資産支出	109,502,000	102,172,400	7,329,600	
	その他の活動支出計(8)	114,807,000	102,172,400	12,634,600	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-267,000	7,601,000	-7,868,000	
	予備費支出(10)	0	—	0	
	当期資金収支差額(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	29,785,379	-29,785,379	
	前期末支払資金残高(12)	149,024,381	149,024,381	0	
	当期末支払資金残高(11)+(12)	149,024,381	178,809,760	-29,785,379	

法人単位事業活動計算書

(自)令和07年04月01日

(至)令和08年03月31日

(単位：円)

勘 定 科 目			当 年 度 決 算 (A)	前 年 度 決 算 (B)	増 減 (A) - (B)
サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部	収 益	就労支援事業収益	32,247,266	33,017,520	△770,254
		障害福祉サービス等事業収益	833,467,078	734,968,458	98,498,620
		三芳町ふれあいセンター事業収益	17,006,220	17,014,140	△7,920
		生活困窮者に対する相談支援事業収益	15,429	45,143	△29,714
		経常経費寄附金収益	573,000	601,000	△28,000
	サービス活動収益計(1)		883,308,993	785,646,261	97,662,732
	費 用	人件費	543,560,932	510,178,052	33,382,880
		事業費	122,278,874	108,944,213	13,334,661
		事務費	122,475,084	116,104,329	6,370,755
		就労支援事業費用	32,510,270	32,268,010	242,260
		生活困窮者に対する相談支援事業費用	15,429	45,143	△29,714
		減価償却費	43,222,806	46,222,637	△2,999,831
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△16,880,885	△19,669,422	2,788,537
	サービス活動費用計(2)		847,182,510	794,092,962	53,089,548
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		36,126,483	△8,446,701	44,573,184
サ ー ビ ス 活 動 外 増 減 の 部	収 益	受取利息配当金収益	342,310	66,872	275,438
		その他のサービス活動外収益	8,872,615	4,665,003	4,207,612
		サービス活動外収益計(4)	9,214,925	4,731,875	4,483,050
	費 用	支払利息	2,307,092	2,083,788	223,304
		サービス活動外費用計(5)	2,307,092	2,083,788	223,304
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	6,907,833	2,648,087	4,259,746
	経常増減差額(7)=(3)+(6)		43,034,316	△5,798,614	48,832,930
特 別 増 減 の 部	収 益	施設整備等補助金収益	9,185,000	550,000	8,635,000
		特別収益計(8)	9,185,000	550,000	8,635,000
	費 用	固定資産売却損・処分損	85	0	85
		国庫補助金等特別積立金積立額	9,185,000	550,000	8,635,000
		特別費用計(9)	9,185,085	550,000	8,635,085
	特別増減差額(10)=(8)-(9)		△85	0	△85
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		43,034,231	△5,798,614	48,832,845	
繰 越 活 動 増 減 の 部	前期繰越活動増減差額(12)		589,912,611	591,501,225	△1,588,614
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		632,946,842	585,702,611	47,244,231
	その他の積立金取崩額(15)		4,750,000	5,000,000	△250,000
	その他の積立金積立額(16)		△97,000,000	△790,000	△96,210,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		540,696,842	589,912,611	△49,215,769

社会福祉事業 事業区分資金収支内訳表

(自)令和07年04月01日 (至)令和08年03月31日

(単位：円)

勘定科目		法人本部	かしの木	すてっぷ	のびる	ふじみ野スパー	合計
事業活動による収支	収入						
	就労支援事業収入	0	164,495	0	31,980,247	102,524	32,247,266
	障害福祉サービス等事業収入	2,500,400	641,194,657	69,329,666	94,665,822	25,776,533	833,467,078
	生活困窮者に対する相談支援事業収入	0	15,429	0	0	0	15,429
	経常経費寄附金収入	20,000	553,000	0	0	0	573,000
	受取利息配当金収入	149,015	96,753	37,967	32,249	26,326	342,310
	その他の収入	641,888	7,800,851	157,200	154,676	118,000	8,872,615
	事業活動収入計(1)	3,311,303	649,825,185	69,524,833	126,832,994	26,023,383	875,517,698
	支出						
	人件費支出	51,616,777	355,405,952	49,793,026	63,930,529	18,505,648	539,251,932
	事業費支出	1,196,493	85,250,799	14,881,887	4,944,661	10,697,546	116,971,386
	事務費支出	10,679,610	84,269,263	3,926,907	5,708,005	6,309,249	110,893,034
	就労支援事業支出	0	153,884	0	31,989,225	100,943	32,244,052
	生活困窮者に対する相談支援事業支出	0	15,429	0	0	0	15,429
	支払利息支出	0	1,453,726	0	476,189	377,177	2,307,092
	事業活動支出計(2)	63,492,880	526,549,053	68,601,820	107,048,609	35,990,563	801,682,925
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-60,181,577	123,276,132	923,013	19,784,385	-9,967,180	73,834,773
施設整備等による収支	収入						
	施設整備等補助金収入	0	4,815,000	0	4,370,000	0	9,185,000
	施設整備等収入計(4)	0	4,815,000	0	4,370,000	0	9,185,000
	支出						
	設備資金借入金元金償還支出	0	22,380,000	0	6,504,000	0	28,884,000
	長期運営資金元金償還支出	0	3,075,000	0	0	3,906,000	6,981,000
	固定資産取得支出	143,110	8,774,200	193,000	9,955,000	4,763,290	23,828,600
その他の活動による収支	ファイナンス・リース債務の返済支出	0	470,556	0	667,920	0	1,138,476
	施設整備等支出計(5)	143,110	34,699,756	193,000	17,126,920	8,669,290	60,832,076
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-143,110	-29,884,756	-193,000	-12,756,920	-8,669,290	-51,647,076
	収入						
	長期運営資金借入金収入	0	120,000,000	0	0	39,000,000	159,000,000
	長期貸付金回収収入	0	0	0	5,040,000	0	5,040,000
	積立資金取崩収入	0	983,400	0	4,750,000	0	5,733,400
その他の活動による収支	拠点区分間繰入金収入	158,000,000	0	0	0	0	158,000,000
	その他の活動収入計(7)	158,000,000	120,983,400	0	9,790,000	39,000,000	327,773,400
	支出						
	長期運営資金借入金元金償還支出	60,000,000	0	0	0	0	60,000,000
	積立資産支出	37,000,000	65,172,400	0	0	0	102,172,400
	事業区分間繰入金支出	5,000	0	0	0	0	5,000
	拠点区分間繰入金支出	0	142,000,000	0	16,000,000	0	158,000,000
	その他の活動支出計(8)	97,005,000	207,172,400	0	16,000,000	0	320,177,400
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	60,995,000	-86,189,000	0	-6,210,000	39,000,000	7,596,000
当期資金収支差額(10)=(3)+(6)+(9)		670,313	7,202,376	730,013	817,465	20,363,530	29,783,697
前期末支払資金残高(11)		6,012,837	112,726,377	19,421,704	10,863,463	0	149,024,381
当期末支払資金残高(10)+(11)		6,683,150	119,928,753	20,151,717	11,680,928	20,363,530	178,808,078

社会福祉事業 事業区分資金収支内訳表

(自)令和07年04月01日 (至)令和08年03月31日

(単位：円)

勘定科目		内部取引消去	事業区分合計				
事業活動による収支	収入						
	就労支援事業収入	0	32,247,266				
	障害福祉サービス等事業収入	0	833,467,078				
	生活困窮者に対する相談支援事業収入	0	15,429				
	経常経費寄附金収入	0	573,000				
	受取利息配当金収入	0	342,310				
	その他の収入	0	8,872,615				
	事業活動収入計(1)	0	875,517,698				
	支出						
	人件費支出	0	539,251,932				
	事業費支出	0	116,971,386				
	事務費支出	0	110,893,034				
	就労支援事業支出	0	32,244,052				
施設整備等による収支	生活困窮者に対する相談支援事業支出	0	15,429				
	支払利息支出	0	2,307,092				
	事業活動支出計(2)	0	801,682,925				
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	0	73,834,773				
	収入						
	施設整備等補助金収入	0	9,185,000				
	施設整備等収入計(4)	0	9,185,000				
	支出						
	設備資金借入金元金償還支出	0	28,884,000				
	長期運営資金元金償還支出	0	6,981,000				
	固定資産取得支出	0	23,828,600				
	ファイナンス・リース債務の返済支	0	1,138,476				
	施設整備等支出計(5)	0	60,832,076				
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	-51,647,076				
その他の活動による収支	収入						
	長期運営資金借入金収入	-60,000,000	99,000,000				
	長期貸付金回収収入	0	5,040,000				
	積立資金取崩収入	0	5,733,400				
	拠点区分間繰入金収入	-158,000,000	0				
	その他の活動収入計(7)	-218,000,000	109,773,400				
	支出						
	長期運営資金借入金元金償還支出	-60,000,000	0				
	積立資産支出	0	102,172,400				
	事業区分間繰入金支出	0	5,000				
	拠点区分間繰入金支出	-158,000,000	0				
	その他の活動支出計(8)	-218,000,000	102,177,400				
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	0	7,596,000				
当期資金収支差額(10)=(3)+(6)+(9)		0	29,783,697				
前期末支払資金残高(11)		0	149,024,381				
当期末支払資金残高(10)+(11)		0	178,808,078				

